

子どもの『目』を守るには

子どもの目を守るには、感染症だけでなく、「見え方の異常」にも注意が必要です。どんな症状に注意する必要があるかをご紹介します。



赤ちゃんの目は、生後すぐはぼんやりとしか見えていませんが、その後1歳までの時期は急速に「見る力」が発達します。3歳までには、多くの子どもが大人と同じ程度(視力1.0)まで見えるようになります。見る力(視力)はゆるやかに発達し、6歳頃には大人と同程度になります。

生まれてすぐ
視力 0.01



明るい、暗い程度しか認識できません。

1歳
視力 0.2



立体的に見る力、動く物を見る力など、視覚が急速に発達します。

3歳
視力 0.8~1.0



大人とほぼ同じくらいまで視力が育ってきます。

5歳
視力 1.0



ほとんどの子どもが、大人と同じ視力を身につけます。

早く治療するほど回復しやすい！

見る力は、目から情報を取り入れ、脳で処理をすることを、毎日繰り返して育ちます。ところが、目に異常があると脳に情報が届かず、見る力が育ちません。早く治療を始めるほど回復しやすいため、見え方の異常に気づいたら、早めに眼科で相談しましょう。



頭を傾ける



目を細める



片目をつぶって見る



横目で見る



片方の目の焦点が合わない

こんなサインに注意

正面から「見る様子」をチェック！

見え方のチェックにおすすめなのが、「紙芝居」です。左右の目の焦点、物を見る様子が詳しく分かります。

保育の様子

もしもし♡
ママですか～？



何を弾こうかしら♪



アンパンマン
にチュー♡



<利用状況>

8月は23名、9月は21名のお子さんのご利用がありました。主な病名はこちらです。

- ・かぜ
- ・手足口病
- ・水ぼうそう
- ・胃腸炎
- ・喘息
- ・中耳炎

